

みんなにやさしいまちに  
～モデル地区推進部会活動報告書～  
〈平成25年度〉



平成26年3月

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会  
モデル地区推進部会

## <目 次>

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業	1
II. 岩槻中学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	
平成25年10月22日 ふれあい学習時 参加者アンケート	7
平成25年11月 5日 まち歩き学習時 参加者アンケート	9
平成26年1月 28日 学習発表会時 参加者アンケート	11
岩槻中学校3年生 まとめ	12
岩槻中学校先生 まとめ	14

---

# I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業

---

## 1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

## 2. 対象地区

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区：高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区：仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区：大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区：桜木小（平成21年度）

なお、平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応することとしました。

- さいたま新都心周辺：下落合小（平成23年度）
- 南浦和駅東口地区：大谷場中（平成24年度）
- 岩槻駅東口地区：岩槻中（平成25年度）

## 3. 活動イメージ

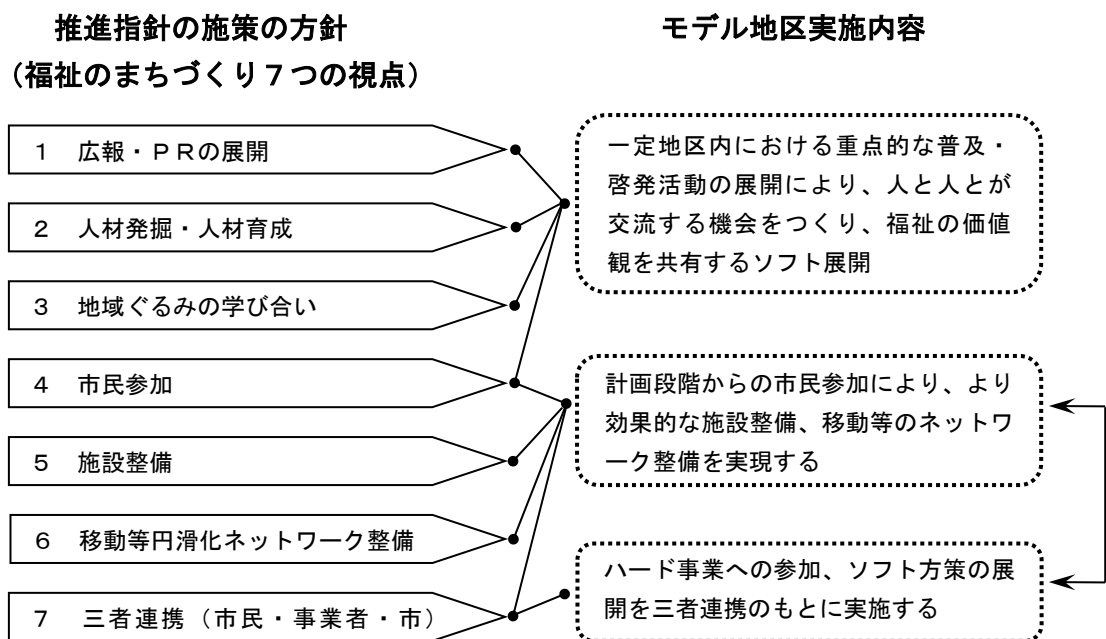
- 「広報・PR」、「人材の育成」、「学び合い」、「施設整備への市民参加」などをキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、バリアフリー体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。  
なお、小・中学校でのバリアフリー体験学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

#### 4. 組織

- 「モデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、自治会関係、教育関係、行政職員によって組織され、モデル地区事業を推進しています。

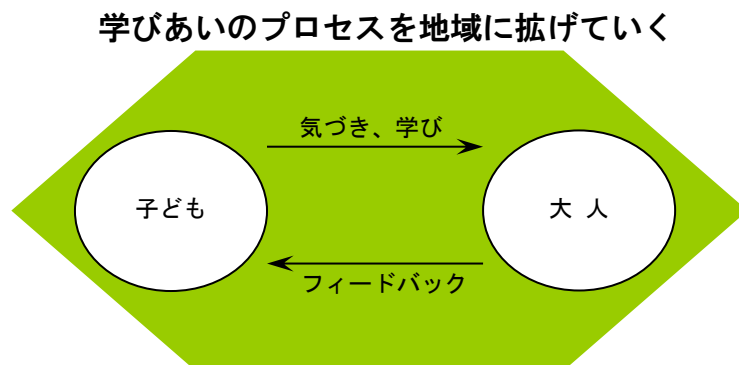
#### 5 モデル地区の事業展開

- 地区内の学校と協力した福祉教育の展開・調査やマップづくり・イベントと連携したPR・施設整備への意見といった活動を、次の「福祉のまちづくり7つの視点」に基づいて進めています。



#### 6 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。



## Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、モデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりとともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす父兄や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や高齢者、妊産婦経験者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

### 岩槻中学校での取組について

岩槻中学校では、3年生（5クラス：184名）を対象に実施しました。

#### (1) 取組の概要

##### 【参加者】

モデル地区推進部会の他、肢体・視覚・聴覚・知的の各障害者団体から選出された方、ボランティアグループ、社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、社会福祉事業団、市関係課職員(約80名)が参加しました。

##### 【みんなにやさしいまちに】

高齢者や障害のある方について知り、共に理解しあい、助け合って生きていくことの大切さに気づき、自分の生き方や生活にいかしていく。

過程	ねらい	子ども達の活動
ふれる	高齢者、障害のある方やバリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて知り、これからの学習意欲をもつ。	<ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者や障害のある方と直接ふれあうことにより、バリアフリーについて知り、車いす、アイマスク、白杖などの歩行体験を行う。</li><li>・ユニバーサルデザインについて知る。</li></ul>
つかむ	「ふれる」場での活動を通じて、自分なりの課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分なりの思いや願い、具体的な活動につながる課題を考える。</li><li>・課題に合わせてグループを作り、活動計画を立てる。</li></ul>

追 求 す る	自分の知りたいことを追求する。	・ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点で身近な地域の見学や歩行体験をして、課題を追及する。
ま と め	自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案する。	・今まで追及したことをもとに、自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案しまとめる。 ・発表会を行い、自分達が学習してきたことや住みやすいまちづくりのための提案を伝え合う。 ・自分の生活に生かす。

## (2) ふれあい学習

日 程	内 容	場 所
10/22	<p>☆ふれあい学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーやユニバーサルデザインについて知る。</li> <li>・高齢者や障害のある方々とのふれあいを通して、お互いを正しく理解し、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを気付く。</li> </ul> <p>☆疑似体験の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす、電動車いす、アイマスク、白杖などの使用方法を学び、次回のまち歩き学習に生かす。</li> </ul>	中学校体育館など



(3) まち歩き

日 程	内 容
11 / 5	<p>視覚・聴覚・肢体・知的の障害当事者の方々や、地区社会福祉協議会、ボランティアグループの方々、モデル地区部会委員、社会福祉協議会職員、社会福祉事業団職員、市関係課職員と共に、岩槻中学校周辺のまち歩きを行った。</p> <p>◎まち歩きコース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①旧岩槻区役所方面</li> <li>②市民会館いわつき方面</li> <li>③岩槻図書館方面</li> <li>④岩槻本丸公民館方面</li> <li>⑤岩槻駅前周辺方面</li> </ul> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">      </div> <p>4クラスを24グループに分けて、障害当事者の方々と約1時間をかけて歩いた。その中で、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用することで、実際にまちの中の便利さ・不便さを自ら体験する。</p>

(4) 発表会

日 程	内 容	場 所												
1 / 2 8	<p>〈まとめる〉</p> <p>活動に参加した関係者が参観するなかで発表会を開催した。</p> <p>☆グループごとにスクリーン等を使用し、これまでの学習で発見した「福祉のまちづくり」の課題と、それに対する提言について、3分程度の発表を行った。</p> <p>(発表班は、前週に生徒たちで選出)</p> <table border="0"> <tr> <td>高齢者について</td> <td>1 グループ</td> </tr> <tr> <td>視覚障害について</td> <td>1 グループ</td> </tr> <tr> <td>聴覚障害について</td> <td>1 グループ</td> </tr> <tr> <td>車いす使用者について</td> <td>1 グループ</td> </tr> <tr> <td>体の障害について</td> <td>1 グループ</td> </tr> <tr> <td>学習の障害について</td> <td>1 グループ</td> </tr> </table>	高齢者について	1 グループ	視覚障害について	1 グループ	聴覚障害について	1 グループ	車いす使用者について	1 グループ	体の障害について	1 グループ	学習の障害について	1 グループ	中学校体育館
高齢者について	1 グループ													
視覚障害について	1 グループ													
聴覚障害について	1 グループ													
車いす使用者について	1 グループ													
体の障害について	1 グループ													
学習の障害について	1 グループ													





## 参加者の声 ～みんなにやさしいまちに～

### 平成25年10月22日 ふれあい学習時 参加者アンケート（抜粋）

#### I 【問】 今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 電動車いすの筋ジストロフィーの3名の講師の方々の体験を聞きました。詳しい生活の様子がわかり、理解が深まりました。ボランティアがもっとも必要なのも。体に障害のある講師の3名の前向きな姿勢は立派でした。【部会委員】
- 2 5グループに分かれ生徒の体験学習が行われたが、それぞれのグループの発表を全体が終わった後、生徒の代表が一人ひとり発表を行えば評価することが出来たと思う。【部会委員】
- 3 中学3年生、進学に最も大事な時期に、受験にはあまり役に立たないこのような行事に取り組んでくださる学校には敬服します。【部会委員】
- 4 障害当事者の話しは重みがありインパクトが強いと感じました。「自分は障害者ではない」との発言も胸に響きました。ただ、知的に障害のある人の幅は広く、言葉がなくコミュニケーションが苦手な重度の人たちの「生きにくさ」を、どこまで受け取ってもらえたのかと感じました。【障害者団体】
- 5 知的障害を理解してもらう事の難しさを感じます。ほんの少しでも生徒さんに伝わって欲しいと願います。話だけで終わってしまい、生徒さんの言葉がほとんど聞けなく残念に思いました。【障害者団体】
- 6 視覚障害がある方にとって、手すりや点字ブロックがいかに大切かを改めて感じました。今後の業務の参考にしたいと思います。【市関係課】
- 7 講師の方の話しを聞いて、道路整備などまだまだ必要な箇所が多いなと感じました。【市関係課】

#### II 【問】 生徒の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- 1 概ね、生徒は真剣に取り組んでいました。障害者の方に聞きたいことや、疑問点などもっと積極的に発信してもらいたかった。福祉に対して日頃から考えを持ち、いつでもそれを発言出来る態度を総合学習の授業などを通じて養いたい。【部会委員】
- 2 講師に質問をする態度は良かった。幸せって何か、困っていること、家庭のこと、車いすは部屋の中で使っている、結婚相手を決めること、収入のことなど自然に聞き、講師もニコニコと答え、講師が乳幼児期にポリオにかかったこと、今の医学のすばらしいことを教えられてよかった。【部会委員】
- 3 話しを終えたら女子生徒二人が来てくれて、「これからは街で障害者が困っているときには進んでお手伝いします」と言ってくれた。最後に握手と手を出されて驚いた。【部会委員】
- 4 「障害があっても私たちと同じなんだ」
- 5 事前学習がしっかりできていたのか、とても上手にまとめられ「さすが中学生」といった感じがしました。【障害者団体】
- 6 「普段から使っている廊下なのに、アイマスクをすると全く印象が違う」と言っていたのが印象的です。普段から障害のある方への目線に立つことが大切だと感じました。【市関係課】
- 7 生徒の「まち歩きをする時に欲しいサービスがありますか」という質問に対する講師の回答が、今後、仕事をするうえで参考になることを聞いたので、印象に残った。【市関係課】

#### III 【問】 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- 1 特に問題はなかったと思いますが、生徒には日頃から福祉に対するmindを持ってもらうことが大切だと感じました。【部会委員】

- 2 生徒の体験は、それぞれの障害を持たれた人々のグループ体験が出来る工夫を（1つの学校で行うことは無理かもしれませんが）。【部会委員】
- 3 今まで実施した学年以外で実施するのも良いのではないのでしょうか。【部会委員】
- 4 学校やグループ担当者同士の打ち合わせは必要と思いました。こちら側の意図が学校担当者に伝わっておらず、当日の変更があり戸惑いました。福祉のまちづくりは大切な事業だと考えています。児童生徒に分かりやすく知的障害を伝えていくために、団体のなかでも話し合いをしていきたいと思います。【障害者団体】
- 5 学校側とも事前の打ち合わせの時間がもう少し欲しいと思います。【障害者団体】
- 6 事前の打ち合わせ内容と、スタッフの先生との認識に若干差があり、戸惑いがありました。【市関係課】
- 7 グループに分かれた後の進行を、学校の先生、講師、市職員の誰がやるのかをはっきりさせておいたほうが良い。

## 平成25年11月5日 まち歩き学習時 参加者アンケート（抜粋）

### I 【問】 今回の授業（まち歩き）に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 街の中には、危険が意外と多い（車いすの場合、道路が狭い、道路の高低差など）。生徒さんも真剣に取り組んでいた。良い経験になったと思う。【協議会委員】
- 2 社会福祉協議会のスタッフによる生徒に対する目配り、気配りが大変良く、さすがプロであると感じた。介助者も、対象者に理解できるように言葉かけをしていて、プロであると感じた。【部会委員】
- 3 聴覚障害者協会より頂いたバンダナを生徒が使用し、耳栓をつけて犬や車が来るのを見て驚いているような様子が見られた。疑似体験グッズの用意が出来たのは良かったと思います。【障害者団体】
- 4 点字ブロックが思いのほかたくさんあった。自転車の置き方など、気を付けたいところは学べた気がする。【障害者団体】
- 5 最初の全体説明会と閉会式とで、参加者全体で集合する時間があったことは、参加者や注意事項等の共有につながり、よい時間になったと思いました。まち歩きについては、生徒さん達は事業の参加にとっても消極的で、講師、スタッフから声掛けをしても反応が薄かったりと、単なる散歩になってしまったのではと危惧しております。今回の内容で課題が発見できたのかと思ってしまう部分があり、スタッフとしての役割の難しさも感じました。【市関係団体】
- 6 普段、何げなく使っている道でも、障害を持っているとすごく動きにくかったり、不便であると、少しでも生徒さん達が感じられたかなと思いました。【市関係課】
- 7 初めて参加させていただきましたが、中学生の時期に「まち歩き」を通して福祉を学べることについて、率直にすばらしい取り組みであると感じました。なるべく多くの生徒さんが学べるように事業を拡大できるかが、今後のポイントでしょうか。【市関係課】
- 8 歩道のスペースがあまりない部分や、見通しの悪い部分、車いすでは走行できない部分など、いくつか気になるところがありました。ハード整備での改善は、すぐには難しいと思いますが、必要に応じて人的支援を行える意識づくりが必要だと感じました。
- 9 視覚障害をもつ方のグループの担当となり、視覚障害者が一人で歩くとき支障となるもの、あった方がいいもの等、バリアフリーに関する意見を伺うことができ、今後の参考になりました。【市関係課】

### II 【問】 生徒の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- 1 普段の生活で気付かない危険な場所（ほんの少しの坂など）を知ることが出来たと素直に感じていたようであった。【協議会委員】
- 2 生徒は、車いすの走行について障害物などの確認や気付きが、良く意識できていた。質問も適切にしていた。【部会委員】
- 3 後ろから車が来た時に、生徒がトントンと気付かせてくれたことが印象に残り良かったです。このまま「ありがとう」の表現を忘れずにいてほしいと思っています。【障害者団体】
- 4 少し私語が多いと思う。【障害者団体】
- 5 車いすに乗っているときに「思うように動かない」や「すごく疲れた」など、車いすで街を移動すると大変だなと感じてもらえた。【市関係課】
- 6 こちらから「歩いていて何か気付くことはないか」と、折を見て声掛けしていましたが、逆に「ここは車いすだと狭いなあ」など、こちらが気付かない部分を気にしている生徒がいました。少しずつ、自分なりの目線で福祉に対する意識付けが出来ているのだと思います。【市関係課】
- 7 高齢者のグループに参加しましたが、障害者のグループに比べ、問題点を見つけるのに苦労している様子でした。しかし、「もし杖をつけて歩いている高齢者だったら・・・」「車いすだったら・・・」と考えながら歩いている様子が印象的でした。【市関係課】
- 8 点字ブロック上に自転車が駐輪してあるのを見つけて移動させていた。今回のまち歩き学習を機に、福祉の心が芽

生えればと思った。【市関係課】

### Ⅲ 【問】次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- 1 親御さんの出席ゼロは非常に残念であった。【部会委員】
- 2 もっと生徒と話しをしたかった。【障害者団体】
- 3 この経験を生かして、いつか役に立つ日が来るのを願っています。【障害者団体】
- 4 1つのコースで、様々な分野が集まって歩く内容だったので、誰がどの分野か一目でわかるように、生徒に何かしら目印をつけるなどの工夫があってもよいと思いました。今回は、歩いているうちに他の分野との距離ができてしまうことがあったり、異なる分野が集まっても単に歩いてしまっており、次回も今回と同じように歩くのであれば、様々な分野が集まっていることが活かせるような歩き方を考えた方がよいかと思いました。  
【市関係団体】
- 5 もう少しポイントを絞って、どういう所が障害を持っていると大変だったり不便を感じるなど、説明してあげられればと思いました。【市関係課】
- 6 事前の調整不足を感じたが、講師の方などの負担を考えると・・・【市関係課】
- 7 生徒からの質問が一つも無かったこと。せっかく講師の方をお招きしているのだから、事前に一人一つずつくらいは用意しておくべきだと思った。【市関係課】

## 平成26年1月28日 学習発表会時 参加者アンケート（抜粋）

### I 【問】 今回の授業（学習発表会）に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 実際に体験学習をしたことにより、まちの中の危険な場所を具体的にあげられるとともに、自分達にできることも具体的に発表されていた。このような1つ1つ、1人1人の取り組みが安全、安心で人に優しいまちづくりにつながると思う。【部会委員】
- 2 中学生であっても少子高齢化が進んでいること等、社会に対する認識をきちんと持っており、テーマもそれらを認識して選定されていてきちんと発表されていた。この取組が意義があったと感じられる。体験を通して、自分たちに何ができるかを真剣に考えている将来を担っていく生徒達が多く体験できる機会を行政はこれからも提供していく必要があると思う。【部会委員】
- 3 学習の成果が何らかの形として反映されたいと思った。「～があった方が良い」との発表があったが、あることで困ることもあるということも勉強してほしいと思った。（例：ガードレール、点字ブロックなど）【協議会委員】
- 4 感じ取ったことをこの発表で終わらせず、ことあるごとに学んだことを誰かに話すことが、多くの社会生活への提案になると思います。【部会委員】

### II 【問】 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- 1 障害者・高齢者の理解をもう少し深めるという意味で、ただ話を聞くだけではなく、一緒に給食を食べてみるなど、一緒に過ごす時間を工夫できたらより良くなると思いました。【障害者団体】
- 2 テーマごとの発表の後に、実際に障害者の方から補足説明をしていただけるとよりテーマに近づきやすくなる。健常者にはわからない本当に困っていることを聞くだけでも危険を共有することができる。【部会委員】

## 岩槻中学校3年生 まとめ（抜粋）

### ・障害者の方のお話や疑似体験を通してわかったことや感じたこと

- 1 自分たちが知らなかった電動車いすの特徴などを知れて、今までは知らなくて近寄ることができなかったけど、とても親しくなれてよかった。
- 2 障害者も楽しんでいるのだなと思いました。
- 3 高齢者の話を聞くことによって、若いころはあってもなくても意識していなかった杖や手摺などが、高齢者になると必要になることがわかり、もっとバリアフリー化してほしいと思った。
- 4 福祉の意味を体で感じることができました。車いすは座っているだけだと考えていたけれど、体験してみて、不安定ですごく怖かったです。使用者の気持ちがわかりました。

### ・まち歩きをして気付いたことや考えたこと

- 1 聴覚障害者の人にとっては文字で表示してあると便利だった。
- 2 岩槻は道路の歩道には、体の不自由な方々にとって危険な場所がいくつかあったりしたので、普段通りに通っている道にも様々な危険があるのだと驚きました。
- 3 まちの中には改善すべきところがたくさんあった。
- 4 まち歩き学習では普段何気なく歩いている道でも高齢者には歩きにくいとか、危険だと感じたので、スロープを作るなどバリアフリー化しなければならないと思った。
- 5 アイマスクをすると急に回りが暗くなって怖かった。視覚障害の人たちはこれが日常だと思うと、街中が危険でいっぱいだと感じた。障害者のために障害のない人たちが、まちを安全にしなければならぬと思った。
- 6 まち歩きでは、耳が聞こえないと外を歩くということは本当に危なくて、怖いということが体験できました。普段、聴覚障害のある人はどんな事に気を付けて歩いているのかがよくわかり、聴覚障害を持っていることがわかるスカーフもあるということがわかりました。

### ・発表会を通して気付いたことや考えたこと

- 1 一人一人が体験を通してそれぞれの感想、意見を持つことができ、みんなの意識が変わったと感じた。
- 2 さまざまな障害があり、それを個性だと受け入れられる社会を築きたい。
- 3 障害者の人たちの気持ちがよく分かり、障害者も普通に恋愛をしたり、お酒を飲んだり、たばこを吸ったりすることが分かった。

### ・障害者の方との交流を通じて感じたことや考えたこと、感想

- 1 差別をせず、共生できる社会を作りたいです。
- 2 差別や偏見の目を捨てしっかりと知識を身に付けたいです。
- 3 自転車を停める位置を考えるなど、小さなことから意識して生活していこうと思いました。
- 4 相手から何も言われなくても「大丈夫ですか。」と話しかけてみたいです。今までは実際に声をかけたら迷惑になるのじゃないかと思って話しかける勇気がありませんでしたが、今回の体験を通して、気持ちがわかったので声をかけていきたいです。
- 5 実際にまち歩きをしたことで、不便なこといいことなど気付いたこともあったので、不便な所は改善し、良いところはこれからのまちづくりにもっと活かしていきたい。いろいろな人が安心して生活できるまちづくりをしていきたい。
- 6 まだ、障害者にとっては暮らしにくい場所があるので、障害のない人と同じ暮らしができるような社会を作りたいです。

- 7 障害がある人でも普通に生活できる設備があることが分かったので、これからはその設備と私達の協力でもっと障害のある人の助けになりたいと思った。
- 8 障害があってもなくても他の人と変わらない態度で接し、何でもかんでも手伝うのではなく、本人ができることは自分でやってもらい、ちょっとしたことお手伝いしたい。
- 9 まちで体の不自由な人を見つけたら声をかけたり、電車で席を譲ったり、当たり前のことをできる大人になりたいです。
- 10 私は、ふれあい学習をする前は、体の障害があることはとても大変で、辛いことがたくさんあると思っていました。しかし、実際にふれあってみると、体の障害がある人も自分の趣味などを通して、私たちと同じように楽しく、前向きに過ごしていることが分かった。

## 岩槻中学校先生 まとめ（抜粋）

### ・障害者の方のお話や疑似体験を通してわかったことや感じたこと

- 1 「学習の障害」の担当でしたが、実際に学習の障害をもった方と交流でき、生徒は自分たちがもっていたイメージよりスムーズに交流ができたようで、障害に対して見直すことができたようです。
- 2 やはりプリントやビデオで観るより、直接障害をお持ちの方々に接し言葉をかけられる方が、インパクトが強い。今風に茶化したりおちゃらけて逃げることはできないので、生徒の真剣さがちがうように思う。
- 3 生徒の勉強不足なところもあったが、講師の方がていねいに教えてくださったので、とても充実した時間になった。

### ・まち歩きをして気付いたことや考えたこと

- 1 「学習の障害」だったので、なかなかまち歩きの中では学べたことが少なかったのが現状です。
- 2 一斉に行くと人数が多く、教員の目が届かないところがあった。生徒はとても緊張していたが、多くの発見があったと思う。
- 3 いろいろな形でハンディを背負いまち歩きをすることで、何かを感じた生徒は多かろうと思う。

### ・発表会を通して気付いたことや考えたこと

- 1 子ども達に積極的に語りかけて下さったことが良かったです（手話で話をされた方、最後にお話をして下さった方）。子ども達にもっと深く考えさせ発表させたかったです。つたない発表ですみませんでした。
- 2 準備に時間をかけられていないので、発表としてよかったかは自信がない。できれば11/5から日をあけずに発表までこられたほうがよいのかもしれない。
- 3 聴覚障害の方が、話をしてくださったことによって、子供たちにとっては生きた授業になってありがたかったです。
- 4 寒い日だったので、短くてよかったが、内容が少なかったと思う。生徒は短くまとめすぎている感じがしたが、学力的にこれが限界だと思う。

### ・先生が感じたことを、これからの学校教育の中でどのように生かしていくか

- 1 生徒の中にはどうしても障害についての偏見はあったと思いますが、その方たちの立場になったり、交流を通して違った視点を持つことができるようになったと思います。本校には特別支援学級もあるので、日々の講習に生かしてもらえるよう、機会があれば指導したいです（3年には交流生徒もいないので、難しいですが…）。
- 2 道徳の時間でも、思いやりや他者とのかかわりについて取りあつかいたい。
- 3 私自身もいくつか福祉に関して体験したことがあるので伝えていきたい。総合の授業の中で体験を含めた活動を、これからも進めていきたい。
- 4 以前クラスで障害のある生徒が在籍していた時があったが、そのクラスでは毎週水曜日交替で、1人ずつ班の中でアイマスクをして給食をとり掃除をする活動をしたことがある。平素の中でも少し福祉について意識を高めていきたいと思う。
- 5 障害をもった方に対する接し方や考え方など、生徒自身に考えさせていきたい。そして、LDやアスペルガーなどの理解につなげていきたい。
- 6 とにかく協力していただいた各団体のみなさまのおかげで、よい学習ができました。できれば来年もつづけていきたいと思いますが、同じような規模で行うのは学校だけでは無理だと思うので、少し規模を小さくして行うのがよいと思います。生徒にとっては「きっかけ」になったと思うので、まだまだ不十分ではありますが、今後の生活の中で、この学習が生きてくると期待しています。



発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電 話 048-829-1254

FAX 048-829-1961